

第3回 小田原市自転車ネットワーク計画検討会

日時：平成25年12月26日（木）14:00～16:00

場所：小田原市役所 3F 全員協議会室

<議事次第>

- | | |
|-----------------------------|-------------------|
| (1) 検討会経緯、第三回検討会議題 | (6) パブリックコメントについて |
| (2) 自転車ネットワーク路線の検討 | (7) 次回の検討会予定 |
| (3) 整備形態の検討 | (8) その他 |
| (4) 自転車空間整備のケーススタディ | |
| (5) 小田原駅・鴨宮駅周辺のネットワーク整備への提言 | |

<議事（質疑応答）>

○検討会経緯、第三回検討会議題

・特になし

○自転車ネットワーク路線の検討

構成員：ネットワーク路線に位置付けられた路線の整備は、設計・関係機関協議等を踏まえると、多くの時間を要する。ネットワーク路線は「将来構想」との認識で、整備においては、今後実施する整備優先度の検討結果に応じるとの認識で良いか。

事務局：ネットワーク路線の選定にあたっては、まちづくりの方向性や課題等により選定した。整備については、今後の整備優先度検討結果を踏まえ、緊急性の高い路線を重点的に整備する方針とするが、各道路管理者の状況への配慮も必要と考える。

構成員：ネットワーク路線に非選定の路線について、別途対策を行うものの、安全性等の課題はあるが、ネットワーク路線として選定していないという趣旨であるが、パブリックコメントにおける一般の方への説明として、理解が得られないのではと考える。整備優先度の検討を行うのであれば、ネットワーク路線から外さず、優先度検討において判断した方が良いではないか。

事務局：当該路線はネットワーク路線として必要であるが、道路構造的な課題により、自転車交通の誘導に適さないため非選定とした。しかし、安全性等の課題は残るため、別途対策により安全性の向上を図る方針としている。頂いた意見を踏まえ、ネットワーク路線選定説明の表現について再検討したいと考える。

構成員：ネットワーク路線に選定された路線は、幹線道路が主であり、自動車交通が多い路線と認識している。自動車交通が多い路線に自転車を誘導して安全性の課題が増すのではないか。細街路を含めた代替え路線の検討も必要ではないか。

事務局：検討会の目的として低炭素なまちづくりを目指しており、幹線道路に整備することで自動車交通から自転車交通への転換促進に寄与するものとする。加えて、幹線道路に整備することで、より多くの利用者への周知が見込まれるため、まずは幹線道路を選定している。

幹線道路を主として路線選定しているが、各管理者の設計等の段階で必要に応じて代替え路線の検討を行って頂く方針としている。また、選定された路線においては、視覚分離やピクトグラム設置により、自動車・自転車双方の安全性が向上すると考える。

○整備形態の検討

構成員：ネットワーク路線の整備形態について「現時点での想定」として示されているが、実際の整備形態として誤解を与えてしまう恐れがある。現段階で、整備形態まで検討する必要があるのか。

事務局：整備形態の検討は、各路線の整備形態を決めるものではなく、整備実現性を踏まえたネットワーク路線選定を目的としている。整備実現性の裏付けのための検討であるため、実際の整備形態と誤解を与えないよう、資料の公表等については検討する。

構成員：整備形態をネットワーク計画に示すのであれば、断面の検討のみではなく、交差点等を含めた路線全体での検討を行い、県警との協議を踏まえた整備形態とすべきではないか。検討会の中での整備形態検討の扱いについて慎重な議論が必要と考える。

事務局：あくまで整備実現性を確認するための参考検討の位置付けである。既成事実となると問題であるため、ネットワーク計画への掲載、公表の有無について再検討したいと考える。

構成員：仮に整備形態の検討を示す場合であっても、路線を指定せず、例えば「4車線道路の場合」の一般的な整備形態の検討に留めるべきと考える。個別路線の検討は、参考程度の扱いであっても、実際の整備形態として解釈される可能性があるため、現段階では時期尚早と考える。

構成員：整備形態の検討については、議論し尽くされていない部分多く、扱い・解釈の混乱を招く恐れがあるため、項目から除外すべきと考える。

事務局：意見について了解した。ネットワーク計画への掲載、公表を行わない方向で検討したい。

○自転車空間整備のケーススタディ

構成員：ケーススタディの結果は、今後の設計等で参考にしたい。資料が公表される場合は、ケーススタディの目的の明示に加え、標準断面による検討であり、実際の整備形態と異なる旨を示すことが望ましいと考える。

事務局：意見について了解した。

構成員：巡礼街道は小田原市内でも交通量が多く、大型商業施設も多数立地しており、平成5年～平成12年に再整備した路線である。特に交差点部は車線幅員も狭いため、歩道の幅員設定も含め今後検討が必要と考える。

事務局：意見について了解した。

構成員：実際の整備にあつては、標準断面のみではなく複雑であるため、一概には意見できない。ただし、設計段階では、ケーススタディのような検討を含め協議したい。

事務局：意見について了解した。

整備形態に関しては様々な意見を頂いた。今後、各道路管理者の設計段階において、詳細な検討を行う方針としたい。

構成員：自転車専用通行帯を整備する場合、路肩（街渠）を含めて必要幅員を確保しているケースがある。街渠は勾配や柵蓋等、自転車通行に適さない構造であるため、水路改修もしくは路肩を通行空間に含めない幅員構成検討が必要ではないか。

事務局：事務局としても、ご指摘の内容は認識している。提示ケースは水路改修を前提としているが、工事規模が大きくなることから、今後検討が必要な課題と考えている。

○小田原駅・鴨宮駅周辺のネットワーク整備への提言

・特になし

○パブリックコメントについて

構成員：ネットワーク路線選定の項目に関しては、今後の整備優先度の検討結果に基づき、整備を進める旨のコメントを追記した方が良いのではないかと。

事務局：意見について了解した。

構成員：利用ルールの周知の手法事例として「自転車交通安全指導員の育成」とあるが、新たに人員を確保し、育成するということか。

事務局：頂いた内容について確認し、次回検討会で報告する。

構成員：小田原市の自動車分担率は、他自治体に比べても高い分担率で推移している。まちづくりの方針として集約型都市構造を目指しており、自転車ネットワーク整備により自動車からの転換を図るのは良いと考える。整備形態の検討のような具体的な内容やパブリックコメント資料の提示方法について、道路管理者との調整が必要では。

事務局：各管理者と調整の上、パブリックコメントの公表資料を整理する。

○次回の検討会予定

事務局：次回の検討会は3月下旬を予定している。詳細な日時は改めて連絡させて頂く。年度末のお忙しい時期の開催となるが出席の程お願いしたい。

○その他

・特になし